

2009 年度 早稲田大学・商学部 9 月入学試験

I.

1. ② 2. ④ 3. ② 4. ④  
5. ④ 6. ② 7. ④ 8. ③  
9. ① 10. ① 11. ③ 12. ③  
13. ② 14. ③ 15. ② 16. ②  
17. ② 18. ① 19. ③ 20. ③

II.

1. ③ 2. ④ 3. ④ 4. ① 5. ③ 6. ④ 7. ② 8. ② 9. ② 10. ③  
11. ② 12. ④ 13. ③ 14. ① 15. ②

III.

1. ① 2. ④ 3. ③ 4. ① 5. ② 6. ① 7. ② 8. ③ 9. ② 10. ③

IV. (解答例)

Although Japan has the world's second largest economy, it is perceived to be behind in terms of global leadership. What do you think can be done to address this problem? Write your opinion in English.

I think there are two things we can do to demonstrate global leadership.

Firstly, Prime Ministers in Japan must have a longer term than now, at least four or five years in succession. Recently, several Prime Ministers have resigned one after another in a short while, so, at a summit meeting, for example, they can't take the initiative, and won't be able to have strong influences, I think.

Secondly, it is said that we Japanese feel inferior, in particular in English, but we must have more confidence in it. We, whether ordinary people, officials or politicians, hesitate to speak in English, so we can't express ourselves easily. Thus, we find it difficult to persuade foreign people of our various policies.

I'm sure that, if we improve the problems stated above, we can exercise global leadership.

## 2009 年度 早稲田大学・商学部 9 月入学試験の講評

全体の問題形式、設問数などはまったく変更はなかった。商学部の 2 月入試とは完全に異なるタイプの問題形式。

難易度は、Ⅰが昨年より若干やさしくなり、Ⅱはやや難化、ⅢとⅣは昨年並みというところか。全体としてはやや易化したと言えるだろう。一昨年までの難しさに比べれば、昨年と今年の問題は比較的解答しやすいので、Ⅳの自由英作文の出来次第という部分が大きいと思われる。

Ⅰ. 読解問題。設問は、「内容一致問題」「空所補充問題」が中心だが、下線部の内容を問うものも例年以上に散見された。テーマは社会科学系の時事問題が中心であった。Ⅳも含めて、受験生に現在の問題意識を持ってほしいという意図が十分に汲み取れるテーマ配分と言える。Questions 9-12 が英文、設問ともやや難しいが、全体的には読みやすい英文で、設問も該当箇所を探しやすいし、解答も素直に出るものが多かった。その分、高得点が要求されることは想像に難くない。8割程度が最低ラインと考えていいのではないか。

Ⅱ. 空所補充形式の文法問題。昨年と同様 15 題。毎年易化していった流れから一転、今年は若干難化したと言えよう。また、今年の問題は文法問題がほぼ皆無で、熟語を含めた語彙問題に終始した。かなり偏った問題と言えなくもない。4. 5. 8. 11. は悩ましい問題なので、その他の部分でいかに稼ぐかが勝負だと思われる。7割程度の正解が求められそうだ。

Ⅲ. 正誤問題。昨年と同様 10 題で、昨年並みと言っていいだろう。so~that 構文、形容詞の並列、時制、be convinced of~, be engaged in~, effect と affect の違い、be related to~, almost と most の違い、仮定法、more と another の違いがポイント。良問揃いなので 8割の解答が最低ラインであろう。

Ⅳ. 自由英作文。今年度は、「日本は世界の第 2 の経済大国だが、世界のリーダーシップの観点からは劣っていると思われる。この問題に対処するために何ができると思うか？」が題目であった。昨年が「日本は食糧の半分以上を輸入に頼っている。日本が食料自給率を著しく上げることは実行可能か?」、2007 年度が「国連のトップになったら何を一番やり遂げたいか?また、どのように実行するか?」、2006 年度は「21 世紀の人間社会に直面する最大の問題」が題目。2005 年度は、「貧困の原因が人間にあるのか、また人間の行為によって克服できるのか?」を問う問題。また、帰国子女向けの問題では、「新聞・雑誌の情報とインターネットの情報でどちらがいいか?」「テロの行為に対処するために個人の自由は犠牲にされるべきか?」が題目として出題されている。2月入試の法学部、国際教養学部、政治経済学部を含めて、すべて社会問題がテーマであることには変更がなかった。昨年度は reasons と複数の理由を書かせるものであったが、今年度はその記述がなかった。ある意味自由に書かせるものになった。100 語程度が理想であると言われているが、今回はその理想に近づけないと合格に結びつかないかもしれない。内容と構造の両面で採点されると思われるが、その両方においてかなりの得点が期待される。